

2023年6月26日

学校法人三幸学園
仙台ウェディング&ブライダル専門学校
校長 水口 俊彦 殿

学校関係者評価委員会
委員長 加藤 竜次

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 加藤 竜次 (株式会社カーム 代表取締役)
- ② 丹野 浩幸 (有限会社アトランティス 代表取締役)
- ③ 板橋 佳蓮 (卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月26日(会場 仙台ウェディング&ブライダル専門学校 506教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 仙台ウェディング&ブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石川 孝紀

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 加藤 竜次

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング・ブライダル分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング・ブライダル分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNO1.のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- 生徒や保護者、地域の方々への人材育成方針や具体的な目標の浸透は今後も課題である。
→2022年度は学校関係者評価委員会後に改めて生徒に対して目指す人材育成方針についての説明を行った。新入生の保護者向けの説明会においても、改めて人材育成方針について浸透を図るべく説明を強化してきた。
- ブライダル業界(社会)により良い人材を輩出するためにも、社会のニーズをしっかりと把握する必要がある。そのためにも関係企業の意見を聞き、連携を深めていかなければならない。
→学校行事(就職決起会やウェディングプロデュース、ブライダルコレクション等)に企業の方をお呼びし、講話して頂くことで現場の話を生徒が聞くことができ、関係企業との連携強化が図れた。

引き続き学園のビジョンを体現出来るよう、生徒・保護者への人材育成方針の浸透と、地域連携を強化していく。

② 学校関係者評価委員会コメント

- 昨年度に引き続き、コロナ禍の中でも入学生を増やせたという事は素晴らしい結果だと思う。学内でしっかりと教育をし、ブライダル業界を盛り上げることの出来る人材を輩出して欲しい。(加藤委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- 学校全体としての理念の浸透や、人材育成方針等については概ね適切であると感じるが、学科やコース等小さな単位で見ると、アフターコロナにおけるブライダル業界のニーズの察知とそれに伴う人材育成の方向性を明確にする必要がある。

② 今後の改善方策

- コロナ禍においては必要最低限の企業への訪問等に留まっていた為、ブライダル現場のニーズを把握できる機会がコロナ禍以前と比べ少なかった。アフターコロナにおいては積極的にブライダル現場への訪問を実施し、学校行事などとの連携強化を図る。また、地域の方向けのイベント等の実施を検討していく(フットイベントやドレス試着等)。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 卒業生でも教育理念は何かと聞かれるとはっきり答えられないが、「技能と心の調和」を学校生活を通して体感できた。(板橋委員)
- 自社の社員でも経営理念の浸透は難しいと感じている中、在校生が体感出来ているのは素晴らしい。理念を言葉で言えずとも、浸透していると言ってよいのではないかと。(加藤委員)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4

教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ICT ツールの活用として SankoGate や GoogleClassroom を使用し、情報共有に関しては効率化を図ることが出来ている。一方で保護者との情報共有については ICT ツール等の導入も検討をしたが、ハード面等の課題も見受けられた為、タイムリーな書面郵送・電話に留まっており、業務効率化という観点では課題が残っている。

② 今後の改善方策

- 保護者との連携については生徒の変化などを察知し、状況に応じて来校頂くなど検討をする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 今の世代の方はメールや SNS 等のツールの方が見返すこともでき、電話のように相手がある場で取れなくとも任意のタイミングで確認できる為、保護者としても使い勝手が良いのではないか。(板橋委員)
- 保護者として学校から子どもの情報をいただけるのは嬉しいが、小中学生とは違いもう18 歳を超えた大人なので、学校からそこまで細かな連絡がなくとも、気になることがある保護者は電話をかけてくれると思う。教員の業務負担なども踏まえると行事の連絡や節目に書面で送る形で良いのではないか。(加藤委員)

(3)教育活動

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4

資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ブライダル業界として当たり前であったことが、新型コロナウイルス感染症流行に伴い大きく変化したが、使用している教科書やテキストは従来型の記載が多く、現在のブライダル業界に関しての記載等が少ない為、学校としてブライダル現場の状況把握と、今後の動向に関する研修の実施が必要である。

② 今後の改善方策

- ブライダル現場で活躍をされている企業の方を招いての講話や講習を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- あらゆる業種でコロナ禍による対応の変化はあったものの、今は5類となりコロナ前の対応に戻っている事も多い為、コロナウイルス対応を標準とした授業にする必要はもはやないと思う。あくまで基礎となる部分は変わらず学び、応用としてコロナウイルスの影響により現在はこのような対応をしている、といったケーススタディとして現状を伝えていくと良い。(加藤委員)

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- 2021年度と比較をして目標喪失による退学者が増加した。

② 今後の改善方策

- 入学前のオープンキャンパス等でしっかりとブライダルの仕事観を伝えていくことと、ブライダル研修等の現場見学や実際に働く方の話を聞く機会を増やすことで、目標喪失につながらないように努める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 在学中に退学した友人がいたが、友人同士でも引き留められずやむを得ない退学はいくつかあった。
(板橋委員)
- 退学者を無くしたいという思いは素晴らしい事だと思う。退学の理由は目標喪失となっているが、早期退学者の中の一定層はまだ目標を失うほど学んでいない事から、そもそも目標がなく入学しているのではないか。防げない退学がある一方で、目標に向かって努力している学生の方があきらかに多い印象を受けるので、引き続き良き人材の育成を期待している。(丹野委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- 昨年度からの課題ではあるが、既卒者が学び直しとして再進学しやすい環境(教育訓練給付制度)があるが、認知は出来ているものの入学生の増加等の結果が出ていない。

② 今後の改善方策

- 2022年度の広報活動において、既卒者の学び直しに対する取り組みを、ダイレクトメールやSNS等を通して認知を強化したが、結果として学び直しを希望する入学生はいなかった為、学び直し層に対して個別アプローチを進めていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 学び直しを希望する場合、自宅開業ができるネイルやエステを学びたいという需要が多いのではないか。従来の通学スタイルではなく、講座スタイルで日中の時間や年単位ではなく3カ月間などの期間を絞って授業を開講すれば、主婦層も含め人は集まるのではないか。(加藤委員)
- コロナ禍で新たに学び直しをしようと思う層が自分の周りも含め少なかったような印象があるので、これから学び直しを考えている人達に卒業生も含めて、支援をして欲しいと思う。(板橋委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- 避難訓練については生徒を交えて年1回、教職員にて年2回実施をしているが、避難経路の確認のみに留まっており、実際に災害があった際への対応に課題が残る。

② 今後の改善方策

- 学校全体での避難訓練(放送や実際に避難場所への避難)を実施する。

③ 特記事項

- 特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 全員で避難訓練を実施するのは難しいかと思うが、災害時マニュアル等の配布は行っているか。(加藤委員)
⇒入学時に全生徒に配布し、説明をしている(石川さん)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- 目標喪失による退学者の増加が見受けられる為、広報活動の時点で業界の魅力ややりがい等を高校生にしっかりと周知をしていく必要性がある。

② 今後の改善方策

- 業界に対しての理解を深めるためのパンフレットやダイレクトメールを作成する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 18歳人口が減っているこの時代に多くの学生が入学されている事は大変素晴らしい。(丹野委員)
- 今後も後輩が沢山入学し、業界を盛り上げてくれる事を期待している。(板橋委員)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

➤ 毎年法令等の遵守が浸透するよう努力しているが、教職員間で法令等の理解に若干差がある。

② 今後の改善方策

➤ 教職員の法令遵守の為の研修を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- コロナ禍により地域の方を巻き込めるイベント等の開催が出来ていない現状がある。

② 今後の改善方策

- 本校の授業内容と連動したイベント実施を検討する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 地域貢献でいうと、JR が毎年 10 月の「鉄道の日」に地域の子もたちが楽しめるイベントを行っている。最初はあまり集まっていなかったが、やり続ける事で今ではかなり多くの人が、参加するようになったので、大きな事でなくとも何かを継続して行う取り組みを実施してみても良いのではないかと。（丹野委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- コロナ禍以降の学びの質をより高め、ブライダル業界のニーズの理解と共に、学校としての成果を上げるための取り組みを継続的に行っていく。具体的にはブライダル業界への就職率の向上、資格検定の取得率向上等数値を上げていく取り組みを行っていく。（石川さん）
- ブライダル業界により良い人材を輩出するためにも、関係企業の意見を聞き、連携を深めていかなければならない。（石川さん）

【学校関係者評価委員会コメント】

- 長く学校に関わらせてもらい生徒募集や就職の実績など非常に良い結果を出していると思う。課題感として挙げられてもいたが、地域や仙台にある企業との繋がりを強化して行って欲しい。（加藤委員）